

サンプル A : 内陸での事例

1. 活動名

内陸部の小学校における海洋教育カリキュラムの開発

2. 実施教科等

総合的な学習の時間・社会科

3. 対象学年

4、5、6年

4. 目的

内陸地域における海洋教育カリキュラムの開発を推進する。海洋を通して我が国と世界のつながりを考えるとともに、日常生活に海洋がいかに関わっているか、海洋が日本文化の形成にいかに関わってきたかを探求する。ジグソー法等、協働学習の手法も用い、話し合いを通して海洋への思考を深める。

5. 実施内容

開発する各単元の内容は以下の通りである。

① 川と海を生活圏とする生き物（4年生）

学区を流れる川、東京湾、太平洋との関係に迫る。鮎やウナギ、ボラなど、川と海を生活圏とする生き物の観察を通して体験的に学び、都心部と海とのつながりを考える。行政公園課の協力も得て川の実地調査も行う。

（関連する既存の学習：4年国語科「うなぎの謎を追って」・4年理科「季節の生き物」4年社会科「私たちの暮らしを支える水道」）

② 海洋環境と地球環境（4年生、5年生、6年生）

生き物を育む干潟の役割、川と海が会う、汽水域の重要性を学び、海洋環境問題、地球環境問題を自らの課題として考える学習を行う。毎年行っている水族館での実習を今年度も行い、体験的に学び、理解を深める。

（関連する既存の学習：総合的な学習の時間「環境」・6年理科「環境」）

③ 海が育む食文化（6年生）

給食や食卓に上る魚類を中心とした食材に着目し、私たちの生活を豊かにしている海洋の役割に迫る。給食の食材を提供している漁協、身近な市場の見学や取材等を通して魚食文化の発展と海洋との関係を考えていく。

（関連する学習：5年社会科「水産業」・5年家庭科「はじめての調理」・総合的な学習の時間「食育」）

④ 日本の海の豊かさと海洋資源、海底資源（5年生）

世界有数の経済水域を有する日本の海に眠る海底資源、海洋資源に着目し、海洋開発と私たちの暮らし、私たちの未来との関係に迫る。JAMSTECや東京大学等の研究機関の出前授業も活用し、私たちの未来を支える日本の海の豊かさを考えていく。

（関連する教科：6年理科「土地のつくりと変化」）

6. 期待される効果・学習効果

この学習を通して、自分たちの生活がいかに関わっているか、海洋のもたらす恩恵のもとに成立し、発展してきたかに気付くことができる。また、各学年における重点（4年生：川と海の世界・5年生海洋開発と海底資源・6

年生：日本の食文化と海洋）として学習を設定することで、既存の教育課程の中において系統的、継続的に学習内容を構成し、児童に海洋リテラシーを育むことができる。この学習を通して、海と日常的に接していない内陸都心部の児童に対し、海と日常生活が深く結びついていることに気付かせ、海への畏敬の念を育む。

7. 予定スケジュール

- 6月・オリエンテーション・海洋出前授業
- 7月・夏季自由研究に向けての事前学習
- 8月・夏季自由研究の実施、研究のまとめ
- 9月・海洋実習・調査（海浜公園）・学区内の川の生態調査・市場見学、調査
- 12月・学習、調査結果をまとめ、発表会の準備を行う。
- 1月・各学習グループの成果を持ち寄り、全体での知の完成を行う。
- 2月・発表会を行う。

8. 予算計画

費用	内容
旅費交通費	成果報告会参加旅費交通費
旅費交通費	バス代・電車賃
	校内海洋ミニ水族園運営及び整備に関わる資材採集経費（交通費等）
消耗什器備品費	校内海洋ミニ水族園運営備品（水槽・フィルター・エサ等）
	海洋実習に係る生物採集用具費（網、バケツ、干潟用具等）
図書費	海洋関係書籍費
印刷製本費	成果発表会資料費
雑費	その他実習等に係る雑費
諸謝金	外部講師（謝金・交通費）

サンプルB：沿岸部での事例

1. 活動名

自分たちとふるさとの海とのつながりを探ろう

2. 実施教科等

生活、国語、社会、理科、音楽、図工、体育、総合的な学習の時間

3. 対象学年

全学年

4. 目的

校区内には海があり、砂浜がある。また、海に関係する団体や機関が集まっており、そこに従事している方も多い。その利点をいかして、海に関わる学習を通して、ふるさとの「海」に対する愛着を深め、ふるさとを誇りに思い、ふるさとのために何ができるかを考え、行動する児童を育てていく。

5. 実施内容

今年度は3年計画の1年目の取り組みと位置づける。今年度は、教科等を意識して計画を立てて実施をしたが、来年度はさらに、各学年の内容と6年間の系統性を持たせた実施内容を考えてみたい。そこで、まず、今年度の海に関する学習をPDCAサイクルで振り返り、内容の見直しを行う。見直しを受けて変更があるかもしれないが、来年度は以下のような実施内容を考えている。

●海に親しむ「ふるさとの海に親しみ、進んでかかわろうとする。」

1・2年は生活科で、学校近くの海辺を歩いて生き物を見付けたり、砂浜の海岸で遊んだりする。3～6年は総合や体育で、海の生き物を採取したり、乗船体験などの様々な海洋活動を行ったりする。また、水産加工体験をしたり、マリンスポーツを楽しんだりする。

●海を知る「ふるさとの海の自然や、海とのつながりを調べようとする。」

1・2年は国語科で、海の生き物や海の乗り物について調べる学習を行う。3～6年は、理科、社会、総合で、水族館の支援を得ながら海の生き物や自然について調べたり、ふるさとの海に関わる歴史と文化を調べたりする。全学年で、図書館を活用した調べる学習を行う。

●海を利用する「海と関わりの深いふるさとの良さを学ぼうとする。」

1・2年は生活科で、3～6年は社会、総合で、関係機関や団体の支援を得ながら、ふるさとの漁業や水産加工業、魚食文化について学んだり、漁港と商港を持つふるさとの日本各地や世界との結びつきについて学んだりする。

●海を守る「ふるさとの海に愛着を持ち、主体的に関わろうとする。」

全学年を通じて、生活科や総合で、海の環境保全について調べたり行動に移したりする。図工や体育、学校行事などで、ふるさとの海を守る気持ちを絵にしたり、海岸マラソン等で啓発活動を行ったりする。

6. 期待される効果・学習効果

- ・ ふるさとの宝である「海」を誇りに思う気持ちを持ち、生涯にわたって海のあるライフワークを楽しもうとする。
- ・ 自分達が住んでいるふるさとに対する愛着を深め、ふるさとのために何ができるかを考え、行動する。
- ・ 地域の水産業や港湾の現状と課題を知り、その解決に向けて考える。

- ・ 水産業関係者や港湾関係者、水産高校生徒との交流を通して、将来海に関わる仕事に従事したいという気持ちを持つ。

7. 予定スケジュール

- 4月 ・海に関わる学習の計画を立てる
- 5～7月 ・海に親しむ（海遊び、海探検、海洋活動、マリンスポーツ）
・海を守る（海岸清掃、海の絵、海岸マラソン）
- 8～11月 ・海を知る（図書館を活用した調べる学習、水族館）
〃 （海の生き物・自然、水産業、港）
- 11～12月 ・海に親しむ（水産加工体験）
・海を利用する（海で働く人々、水産業、魚食）
- 1～2月 ・海を利用する（海運業、貿易）

8. 予算計画

費用	内容
旅費交通費	成果報告会参加旅費交通費
旅費交通費	貸切バス代 1台×1回
消耗什器備品費	記録用カメラ 2台
雑費	雑費
諸謝金	講師謝金 6名
消耗什器備品費	簡易テント

サンプルC：川から海につながる学習事例

1. 活動名

海と川とのつながりを主題とした学習

2. 実施教科等

総合的な学習の時間・理科

3. 対象学年

5年

4. 目的

本校では、学区の川を活用して、全学年が川での体験学習・調べ学習を行っている。川の学習を通して、川に親しみ愛着を持つ児童が増えているが、目の前の川が海につながっていることは実感できておらず、海の恩恵や海に関する環境保全の大切さは児童の身近な問題ではない。本プログラムを通して、実際に海をたずね、しっかりと海にふれる機会を増やし、かつ、そこに生息する生き物に目を向けさせることを通して、川と海とのつながりを実感させ、視点の広がりをもたせつつ海への親しみを深める契機にしたい。

5. 実施内容

海での体験活動にしっかりと時間を確保し、その恩恵や大切さを実感する機会づくりをしつつ、これまでの川での学習との関連づけを図りながら探究的な学習としての単元を創る。

具体的には、次のような活動や学習を計画している。

- ・ 臨海宿泊学習を実施し、集団での海上漕艇を体験したり、ウミホテルにふれたり、専門家から干潟の生き物について学んだりする機会をもつ。
- ・ 教わった海の生き物と、学校前の川にいる生き物を比べて網や手で捕まえられる川の生き物と海の生き物とを比較したり、プランクトンを調べたりして川の生き物はよく似ているところと異なること頃があることを具体的に知る。
- ・ 県内には海に関連する産業が多くあることを知る体験をする。
- ・ 川と海との違い、関連、川の水が海に及ぼす影響について調べ、自分たちの生活や課題になっている環境汚染について考える。
- ・ 調べたことをまとめて、川と海の繋がりや今自分たちにできること、大切にしたいことを発信する。

6. 期待される効果・学習効果

自然界には多様な生物がいることや、それぞれの環境に適応した暮らし方や合理的な体のつくりを持っていることに体験を通して実感する。自分たちの暮らしもまた、海と密接に関係していることを知り、環境保全への意識を高めようとする。

7. 予定スケジュール

6月 川での体験活動を行う。

7月 臨海学習において、ウミホテル観察、海の生き物講座、カッターによる海上集団漕艇体験を行う。

9月 臨海学習をまとめて、海の生き物と川の生き物との類似点や相違点、住処の違いについて調べ、まとめる。

10月 生態系や産業など、海と川の繋がりについてテーマを持って調べ、確かめたりまとめたりして校内に発信する。

8. 予算計画

費用	内容
旅費交通費	成果報告会参加旅費交通費
	貸切バス代 (片道1台) × 2
消耗什器備品費	児童記録用デジタルカメラ (5台)
消耗什器備品費	記録用メモリカード(5枚)
消耗什器備品費	干潟活動等用品 (ブルーシート、かご、救急セット)
消耗什器備品費	干潟活動等用品 (シャベル・網・バケツ・軍手)
	短焦点プロジェクタ
図書費	調べ学習用書籍